

街道物語



郡境石



島村志津摩の碑



井戸

金辺観音 卍
島村志津摩の碑

古代の碑 ~鹿春と鏡山の里~



豊前國風土記逸文「香春」(役場前)
 豊前の國の風土記に曰はく田河の郡、鹿春の郷、郡の東北のかたにあり。此の郷の中に河あり。年魚あり。其の源は、郡の東北のかた、杉坂山より出でて直に正西を指して流れて下りて、眞淵川に湊ひ會へり。此の河の瀬清淨し、因りて清河原の村と號けき。今、鹿春の郷と謂ふは訛れるなり。昔者、新羅の國の神、自ら度り到來りて、此河原に住みき。便即ち、名づけて鹿春の神と曰ふ。以下略「河原」
 ↓鹿春↓賀春↓香春

採銅所



里程標 (古宮八幡神社横)



史跡めぐり

現人神社 (お申さま)

現人神社

大神宮

採銅所

古宮八幡神社

里程標

清記殿

神間歩 (かみまぶ)

牛新山 五徳峠へ

三ノ岳

金辺橋

香春神社

香春神社由緒碑

豊前國風土記の碑



豊前國風土記の碑

和銅六(七三三)年
 豊前國の風土記に云はく、田河の郡、鏡山の東にあり。昔者、氣長足姫尊、此の山に在して遙かに國形を覽て、勅祈ひたまひしく、「天神も地祇も我が為に福へたまへ」とのりたまひて、乃ち、御鏡を用ちて、此の處に安置きたまひき。其の鏡、即ち石と化りて山の中に見在り。因りて名づけて鏡山と曰ふ。已上

豊前國風土記逸文「鏡山」(鏡山入口)



香春



里程標 (本町)



御茶屋・香春藩庁跡



札の辻



伊能忠敬止宿之地碑



道標 (山下町)



香春藩庁門



道標 (下香春)



里程標 (御殿橋)



近代の文入碑



昭和四十八年十一月十一日



森鷗外句碑 (役場前)
雨に啼く鳥は何鳥若葉蔭
森鷗外
よれば、鷗外は明治三十四年七月四日より同九日の間に演習のために香春を往来している。

小坂蚩泉句碑 (神宮院)
二の岳のかぶさる
坊の虫時雨
蚩泉
昭和四十八年十一月十一日



杉田久女句碑 (神宮院)
梅林のそゞろ歩きや寛きく
探梅や暮れて喰しき香春嶽
杉田久女
昭和九年二月十一日神宮院にて詠む
平成九年四月吉日建立



西村山翁句碑 (魚町 西村邸)
一の岳二の岳楠の若葉哉
山翁



開田梅丘翁碑 (紫竹原開田邸)
帰る家は夕陽の丘や葉ほり
梅丘
俳聖松尾芭蕉第八代
昭和十一年秋建立

※詳しくは香春町史を参照ください。